

## 大学入学共通テストの実施

## 日印大学等フォーラムに寶金総長が参加

## フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に北海道大学名誉博士を授与





新渡戸カレッジ公開シンポジウム  
成果報告会を実施



日印大学等フォーラムに寶金総長が参加

## 全学ニュース

- 1 大学入学共通テストの実施
- 2 北海道大学一般選抜の志願状況
- 3 フロンティア入試Type I 最終合格者の発表
- 3 国際総合入試合格者の発表
- 4 フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に北海道大学名誉博士を授与
- 5 博士学生支援プログラム採択学生向け確定申告セミナーを開催
- 6 新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施
- 7 日印大学等フォーラムに寶金総長が参加
- 8 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、札幌北斗高校にて3名の研究者が講義を実施
- 10 令和4年度第9回 定例記者会見を開催
- 11 北大フロンティア基金
- 13 第2回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) 第5回国際シンポジウムを開催
- 14 第2回北海道大学×HBC子どもSDGs大学～未来のキーワード“カーボンニュートラル”って何?～を開催

## 部局ニュース

- 15 工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
- 16 令和4年度第1回農学研究院FD研修会を開催
- 17 環境健康科学研究教育センター、保健科学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所が第4回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加
- 18 「森のたんけん隊2023冬」を開催
- 19 令和4年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催

## お知らせ

- 20 過半数代表候補者の決定

## 表敬訪問 21

## 人事 22

- 22 新任教授紹介



フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に名誉学位を授与



令和4年度第9回 定例記者会見を開催



第2回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) 第5回国際シンポジウムを開催



第2回北海道大学×HBC子どもSDGs大学～未来のキーワード“カーボンニュートラル”って何?～を開催

表紙：大学入学共通テストの実施（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景㊦ 人工雪誕生の地記念碑（北11条西8丁目）

# ■全学ニュース

## 大学入学共通テストの実施

令和5年度の大学入学共通テストが、1月14日（土）及び15日（日）に全国一斉に実施されました。

本学においても、大学入学共通テスト実施体制により、実施本部、総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を設置し、本学教職員等延べ約1,200人の協力を得て、平穩のうちに終了しました。

全国の志願者は、前年度より17,786人減少し、512,581人でした。

本学が担当する試験場（水産学部試験場、藤女子大学試験場を含む）の志願者数は、昨年度より685人少ない4,202人で、各試験場（会場）の受験状況は次のとおりです。

このほか、本学では1月28日（土）及び29日（日）に高等教育推進機構会場で、本試験を受験できなかった北海道地区の受験者88人に対し、追試験を実施しました。

（学務部入試課）

### 令和5年度大学入学共通テスト受験状況

試験場（会場）名・志願者数	日 程		1日目										2日目							
	教 科		地理歴史、公民		国語		外国語【筆記】		英語【リスニング】		英語【リスニング】再開テスト		理科①		数学①		数学②		理科②	
	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数
北海道大学試験場	農学部会場	441	433	8	433	8	434	7	433	8	1	0	0	441	433	8	433	8	433	8
	人文・社会科学総合教育研究棟会場	652	627	25	630	22	629	23	628	24			0	652	629	23	629	23	628	24
	理学部会場	260	20	240	172	88	169	91	166	94			102	158	140	120	54	206	13	247
	工学部会場	505	374	131	436	69	445	60	439	66			375	130	417	88	380	125	26	479
	高等教育推進機構A会場	600	477	123	474	126	462	138	454	146			78	522	94	506	46	554	0	600
	高等教育推進機構B会場	605	551	54	558	47	557	48	552	53			482	123	490	115	473	132	0	605
	保健科学研究所会場	338	135	203	243	95	263	75	253	85			192	146	261	77	221	117	236	102
	高等教育推進機構N会場	11	7	4	7	4	8	3	8	3			1	10	8	3	7	4	6	5
藤女子大学試験場	500	445	55	453	47	450	50	448	52			381	119	384	116	362	138	0	500	
札幌地区 小計	3,912	3,069	843	3,406	506	3,417	495	3,381	531	1	0	1,611	2,301	2,856	1,056	2,605	1,307	1,342	2,570	
		78.5%	21.5%	87.1%	12.9%	87.3%	12.7%	86.4%	13.6%			41.2%	58.8%	73.0%	27.0%	66.6%	33.4%	34.3%	65.7%	
北海道大学水産学部試験場	290	269	21	268	22	267	23	266	24			79	211	263	27	252	38	181	109	
合 計	4,202	3,338	864	3,674	528	3,684	518	3,647	555	1	0	1,690	2,512	3,119	1,083	2,857	1,345	1,523	2,679	
		79.4%	20.6%	87.4%	12.6%	87.7%	12.3%	86.8%	13.2%			40.2%	59.8%	74.2%	25.8%	68.0%	32.0%	36.2%	63.8%	

※欠席者には当該教科を「受験しない」と申請し登録していない者も含まれる  
 ※本表は、本学を試験場とする受験者の受験状況であるため、追試験の受験状況は含まない。



受験風景

# 北海道大学一般選抜の志願状況

令和5年度の本学一般選抜の志願者は、前期日程5,284名、後期日程4,524名、合計9,808名となり、昨年度と比較すると292名増加し、倍率は4.2倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（土）・26日（日）、後期日程が3月12日（日）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

令和5年度北海道大学一般選抜志願者数

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度 倍率	総合型選抜 の欠員	変更後の 募集人員	変更後の 倍率		
総合入試	文系	95	350	3.7	4.0	349	3.7					
	理系	数学重点選抜群	125	463	3.7	4.0	410	3.3	0	125	3.7	
		物理重点選抜群	225	656	2.9	4.0	591	2.6	0	225	2.9	
		化学重点選抜群	226	612	2.7	4.0	605	2.7	0	226	2.7	
		生物重点選抜群	169	417	2.5	4.0	444	2.6	0	169	2.5	
		総合科学選抜群	239	443	1.9	4.0	691	2.9	1	240	1.8	
	計	984	2,591	2.6		2,741	2.8	1	985	2.6		
	前期日程	文学部	118	330	2.8	4.0	367	3.1				
		教育学部	20	55	2.8	4.0	56	2.8				
		法学部	140	363	2.6	4.0	321	2.3				
		経済学部	140	328	2.3	4.0	350	2.5				
医学部		医学科	85	291	3.4	3.5	315	3.4	5	90	3.2	
		保健学科	看護学専攻	60	148	2.5	5.0	132	2.2	6	66	2.2
			放射線技術科学専攻	28	83	3.0	5.0	73	2.6	7	35	2.4
			検査技術科学専攻	25	106	4.2	5.0	65	2.6	10	35	3.0
			理学療法学専攻	13	34	2.6	5.0	47	3.6	2	15	2.3
			作業療法学専攻	10	74	7.4	5.0	30	3.0	6	16	4.6
			小計	136	445	3.3		347	2.6	31	167	2.7
計	221	736	3.3		662	2.9	36	257	2.9			
歯学部	38	149	3.9	6.0	144	3.8	4	42	3.5			
獣医学部	20	95	4.8	6.0	90	4.5						
水産学部	105	287	2.7	4.0	329	3.1	9	114	2.5			
合計	1,881	5,284	2.8		5,409	2.9	50	1,931	2.7			
後期日程	文学部	37	333	9.0	6.0	306	8.3					
	教育学部	10	130	13.0	10.0	97	9.7					
	法学部	40	516	12.9	6.0	351	8.8					
	経済学部	20	231	11.6	10.0	315	15.8					
	理学部	数学科	10	110	11.0	6.0	105	10.5				
		物理学科	3	97	32.3	6.0	81	27.0				
		化学科	20	182	9.1	6.0	156	7.8				
		生物科学科 生物学専修分野	10	83	8.3	6.0	108	10.8				
		生物科学科 高分子機能学専修分野	2	24	12.0	6.0	18	9.0	2	4	6.0	
		地球惑星科学科	5	74	14.8	6.0	70	14.0	3	8	9.3	
	計	50	570	11.4		538	10.8	5	55	10.4		
	薬学部	24	347	14.5	6.0	336	14.0					
	工学部	応用理工系学科	29	381	13.1		296	10.2	4	33	11.5	
		情報エレクトロニクス学科	38	458	12.1		280	7.4				
		機械能工学科	25	231	9.2		331	13.2				
		環境社会工学科	47	376	8.0		378	8.0	3	50	7.5	
		計	139	1,446	10.4		1,285	9.2	7	146	9.9	
農学部	53	468	8.8	6.0	378	7.1						
獣医学部	15	105	7.0	6.0	114	7.6						
水産学部	50	378	7.6	6.0	387	7.7						
合計	438	4,524	10.3		4,107	9.4	12	450	10.1			
総計	2,319	9,808	4.2		9,516	4.1	62	2,381	4.1			

注1: 「倍率」は、小数第2位を四捨五入。

注2: 「第1段階選抜予告倍率」は、当初募集人員に対するもの。



# フロンティア入試Type I 最終合格者の発表

令和5年度フロンティア入試Type I の最終合格者発表が2月14日（火）に行われ、19名が合格しました。

(学務部入試課)

令和5年度フロンティア入試最終合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	第2次選考合格者数	最終合格者数	
Type I	理学部地球惑星科学科	5	20 (2)	4.0	4 (0)	2 (0)	
	医学部 保健学科	医学科	5	10 (6)	2.0	1 (0)	0 (0)
		看護学専攻	7	10 (10)	1.4	1 (1)	1 (1)
		放射線技術科学専攻	7	11 (7)	1.6	0 (0)	0 (0)
		検査技術科学専攻	10	6 (4)	0.6	0 (0)	0 (0)
		理学療法学専攻	4	7 (6)	1.8	2 (2)	2 (2)
		作業療法学専攻	7	3 (3)	0.4	1 (1)	1 (1)
		歯学部	5	10 (6)	2.0	5 (3)	1 (1)
	工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)	4	1 (1)	0.3	0 (0)	0 (0)
		環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4	2 (1)	0.5	2 (1)	1 (0)
水産学部	20	42 (14)	2.1	20 (10)	11 (3)		
小計		78	122 (60)	1.6	36 (18)	19 (8)	
Type II	理学部	数学科	13	71 (8)	5.5	13 (2)	13 (2)
		物理学科	14	35 (4)	2.5	14 (1)	14 (1)
		化学科	11	27 (8)	2.5	11 (1)	11 (1)
		生物科学科 (高分子機能学専修分野)	3	11 (5)	3.7	1 (0)	1 (0)
	工学部	応用理工系学科 (応用物理工学コース)	15	38 (4)	2.5	15 (1)	15 (1)
		機械知能工学科	5	31 (6)	6.2	5 (1)	5 (1)
		環境社会工学科 (環境工学コース)	5	30 (8)	6.0	5 (2)	5 (2)
小計		66	243 (43)	3.7	64 (8)	64 (8)	
計		144	365 (103)	2.5	100 (26)	83 (16)	

※ ( ) 内の数字は、女子で内数。

## 国際総合入試合格者の発表

令和5年度国際総合入試のうち、条件付合格者（国際バカロレア資格の取得を条件として合格していた者）の最終合格発表が2月14日（火）に行われ、12名が合格しました。

昨年12月8日（木）に発表された合格者と合わせ、最終合格者は14名となりました。

(学務部入試課)

令和5年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	9 (6)	1.8	5 (4) [ 4 (3) ]	5 (4)
	理系	10	27 (13)	2.7	9 (6) [ 8 (5) ]	9 (6)
計		15	36 (19)	2.4	14 (10) [ 12 (8) ]	14 (10)

※ ( ) 内の数字は、女子で内数

※ [ ] 内の数字は、条件付合格者数で内数

# フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に北海道大学名誉博士を授与

1月27日（金）、学术交流会館において、フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に対する名誉学位記授与式及び記念講演会が執り行われました。これは、マルシアーノ長官が国際文化交流その他の活動を通じ、本学の教育・研究の進展に寄与した功績が特に顕著であるため、名誉博士の授与を決定したことによるものです。

マルシアーノ長官は、地球観測のための超小型衛星開発プログラムにおいて、2015年以降本学と共にフィリピンでの超小型衛星初号機及び2号機の完成と打ち上げを実現し、その後の運用にも尽力してきました。また、後継の3号機の光学機器の開発プロジェクトも実施中であり、こうした宇宙開発利用及び科学技術分野への貢献が契機と

なり、2019年8月にフィリピン宇宙庁の立ち上げに至りました。一方で、このフィリピン宇宙庁の設立により、東南アジアの近隣諸国にも高い関心を生み出したことから、本学にとっても、ASEAN諸国との関係強化や国際的なプレゼンスの向上に繋がることが期待されています。

また同氏は、海外の学生への教育にも熱心に取り組んでおり、本学においても2017年から2022年まで北海道大学アンバサダーを務めたほか、2016年から招へい教員としてHokkaido Summer Instituteに参加し、フィリピン人留学生や短期交流を目的とした研究者を本学へ派遣するなど、一層の関係強化を進めてきました。2022年3月には本学とフィリピン宇宙庁との間で連携協定を締結しており、宇宙人材の育成に向け

た今後の交流・発展が期待されます。

当日は宇宙科学分野やフィリピンに縁のある学生や教職員を中心に、約100名が出席し、この貴重なセレモニーを見届けました。

学位記授与式に引き続き、マルシアーノ長官による記念講演会“Building the Space Value Chain in the Philippines: The Catalytic Role of Hokkaido University and International Cooperation”（フィリピンにおける宇宙バリューチェーンの構築：北海道大学の触媒的役割と国際協力）が行われ、参加者からは多くの質問が寄せられるなど、盛会のうちに終了しました。

今回の授与により、本学の名誉学位被授与者は43名となりました。

（国際部国際連携課）



名誉学位記の授与



マルシアーノ長官（左）と寶金清博総長（右）



挨拶を行うマルシアーノ長官

# 博士学生支援プログラム採択学生向け確定申告セミナーを開催

1月24日（火）、博士学生支援プログラム採択学生向け確定申告セミナーを開催しました。

北海道大学の「DX博士人材フェロシップ」や「アンビシャス博士人材フェロシップ」といった、博士学生支援プログラムに採択された学生に支給される月額15万円の研究奨励費や研究専念支援金は雑所得として課税の対象となるため、確定申告が必要となり

ます。

今回のセミナーは、田中将太郎公認会計士・税理士事務所代表の田中将太郎氏と、同事務所の巽 玲奈氏をお招きして、確定申告の概要及び確定申告に必要な知識等を実践形式で紹介していただきました。本制度の内容や特徴を組み入れたオリジナルの講演内容で、視聴学生から寄せられた多くの質問にも丁寧に回答をいただき、確定申

告への理解を深めることができました。

当日のYouTubeライブ配信は日本語で行いましたが、セミナーの中で、国税庁のホームページに掲載されている、複数の言語に対応したマニュアルを紹介するなど、留学生のニーズにも対応しています。

(学務部学務企画課)

日時：2023年1月24日（火）16：00～17：00

会場：YouTubeライブ配信\*

講演者：田中将太郎公認会計士・税理士事務所 代表 田中将太郎氏  
同事務所 巽 玲奈氏

※確定申告期間中、オンデマンド配信をELMS上に掲載



セミナーの様子（左から田中氏、巽氏）



配信の様子



質疑応答の様子



講師を務めてくださった田中氏（左）、巽氏（右）

## 新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施

新渡戸カレッジ学部教育コースでは、12月10日（土）高等教育推進機構大講堂において、「新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会」を開催しました。本シンポジウムの目的は、新渡戸学（フェローゼミ）及び新渡戸学（アドバンストゼミ）の成果報告及び意見交換を通して、学び得た知識を共有するというものです。当日は対面で行うとともにライブ配信も行い、会場参加が難しい方や高大連携の高校生にも視聴の機会を設けました。

新渡戸学（フェローゼミ）は、北大同窓生の新渡戸カレッジフェローが指導する少人数の演習形式の科目として、新渡戸カレッジ基礎プログラム学部教育コースの学生を対象とした必修科目に位置付けられています。今年度は10月1日（土）から始まり、現地視察を含めた全5回のゼミが全て対面で実施されました。新渡戸学（アドバンストゼミ）はオナーズプログラム学部

教育コースの学生を対象とした少人数演習形式の科目で、9月1日（木）に開始し、フェローや関係者と共に実施した十勝への合宿等を中心に、グループ活動に取り組んできました。フェローゼミ、アドバンストゼミ共に、新渡戸カレッジ生の上級生がチューターとしてゼミ生をサポートし、先輩、後輩のつながりを築いていることが特徴の一つとなっています。

本シンポジウムには各ゼミテーマの関係者にも出席いただき、新渡戸カレッジ校長代理の山口淳二理事・副学長からの挨拶の後、フェローゼミから7つの代表グループ、アドバンストゼミから一つのグループによる発表が行われました。今年度は各ゼミの発表時間を15分、Slido※1を利用した質疑応答を8分と昨年より長く設定しており、これまでも増して、熱意にあふれ、質疑応答が活発であったとの感想が聞かれました。また、各ゼミの発表の他

に、オナーズプログラムや学生企画行事の紹介時間が設けられ、実際に参加している学生からの体験談等が報告されました。すべての発表の後、フェローゼミ統括の多田幸雄フェロー並びにコーチーターとしてゼミをサポートしてきた理学院博士後期課程2年川谷維摩さんから講評をいただき、その後、フェローゼミ履修生の投票による学生大賞の結果が発表され、本年度のシンポジウムを終了しました。

最後になりましたが、フェローゼミ及びアドバンストゼミをご指導いただいた各フェロー及び支援教員、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

※1：イベント等でQ&Aなど参加者との双方向コミュニケーションに役立つ機能を提供しているWebサービス

（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室）



会場全体の様子



発表の様子



来場者全員での記念撮影



## 日印大学等フォーラムに寶金総長が参加

1月23日（月）、椿山荘（東京都文京区）にて、科学技術振興機構（JST）主催の日印大学等フォーラムが「『日印間の大学・研究機関間交流の強化と今後の課題解決』—若手イノベーション人材の育成と交流—」のテーマのもと開催され、寶金清博総長が参加しました。

当日、フォーラム開始前には、寶金総長と本学の大学間交流協定校であるインド工科大学（IIT）ボンベイ校 Subhasis Chaudhuri学長、ハイデラバード校B. S. Murty学長との個別懇談において、本学が両大学と実施しているSTSIプログラム\*や将来の研究教育協力の可能性について意見交換を行い、

今後の具体的な連携強化に関して両大学間で更に検討を進めることで合意しました。

フォーラム第一部の全体会合では、JST、文部科学省、駐日インド大使館からの挨拶、記念撮影の後、日印両国の大学代表者から講演が行われました。寶金総長からは、本学の歴史や研究教育分野、THE Impact Rankingsでの本学の高い評価、STSIプログラムの概要や参加学生の高い満足度と卒業後の進路について、また、JST、国際協力機構（JICA）、日本学術振興会（JSPS）等の各種プロジェクトや留学生の積極的受け入れなどによるインドの大学との研究教育両面での今後の

交流の展望について紹介しました。

第二部に行われた参加大学代表者による円卓会議では活発な意見交換が行われ、今後の日印間の研究や人材交流に関する宣言を採択し、本フォーラムは成功裏に終了しました。

\*STSIプログラム：本学及びIITハイデラバード校、ボンベイ校、マドラス校が、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題解決に貢献できる人材の育成を目指す。大学院特別教育プログラム（One program for Global Goals: OGGs）のプログラム（コース）の1つ。

URL：<https://stsi.oia.hokudai.ac.jp/>

（国際部国際連携課）



寶金総長とIITボンベイ校Chaudhuri学長の懇談



寶金総長とIITハイデラバード校Murty学長の懇談



寶金総長による講演

# 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、札幌北斗高校にて3名の研究者が講義を実施

「がんと薬物療法、最新の治療開発」 北海道大学病院 助教 川本泰之

日本人の二人に一人ががんになると言われている現在、川本助教は消化器悪性腫瘍に対する薬物療法について研究を進めています。講義では、正常な細胞ががん細胞になる発がん機構と、がんの治療、遺伝子変異に基づいた薬

物療法について解説しました。スライドで最新のがん遺伝子検査について説明し、より早く、より良い治療が受けられるよう、研究が進められていると話し、生徒たちの医学への関心が高まりました。



今後のがん治療に関する薬物療法について話す川本助教

日時：2022年12月7日（水）14：00～15：30

会場：北海道旭川東高等学校

参加生徒：1、2年生 51名

「高校生のための認知心理学的広告表示解説法」 文学研究院 教授 河原純一郎

広告は製品の魅力が伝わるよう工夫して作られています。一方で、表示しなかったはずの製品の特性や購入条件などを見落として消費者トラブルを起こすこともあります。認知心理学が専門の河原教授は、こうした広告表示へ

の注意や見落としについて、調査実験を行いながら研究しています。講義では実例を交えながら、モノ、意図、過去という3要素がヒトの注意の向け方に影響することを解説しました。



講義後、生徒からの質問に答える河原教授

日時：2022年12月7日（水）14：00～15：30

会場：北海道旭川東高等学校

参加生徒：1～3年生 42名

「非侵襲的に病気を見つける最新の画像診断」 医学研究院 教授 工藤與亮

工藤教授は画像診断が専門の医師です。講義では、診断のデモとして、小型の超音波装置を教室に持ち込み、生徒の首にあてて、体の中の血管やリンパ節などをリアルタイムで観察しまし

た。また、アルツハイマー型認知症などを早期に発見するために、現在研究中のMRI診断法の開発について解説し、医療系を目指す生徒達に向けて医師の仕事について紹介しました。



生徒へ医師の仕事について話す工藤教授

日時：2022年12月15日（水）15：40～16：40

会場：札幌北斗高等学校

参加生徒：1、2年生 22名

### アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ (Academic Fantasista)」。

内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度はコロナ対策を十分に行って、札幌近郊の高校等を対象に22名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>

・Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa

(社会共創部広報課)



リサーチタイムズ



フェイスブック

## 令和4年度第9回 定例記者会見を開催

1月18日（水）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。

黒岩麻里総長補佐の進行のもと、工学研究院の江丸貴紀准教授が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から8名の参加がありました。発表内容は以

下の通りです。

(社会共創部広報課)

### 発表事項（発表者）

- ・積雪環境下における除雪機や配送車両の無人化に向けた取り組みについて（PDF）  
（工学研究院 准教授 江丸貴紀）

※発表資料掲載URL

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html>



定例記者会見の様子



発表を行う江丸准教授



黒岩総長補佐と江丸准教授



会見後の追加取材の様子



# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報  
基金累計額 (12月31日現在)

36,174件 6,196,012,652円

## 12月のご寄附状況

法人等15社、個人575名の方々から27,300,225円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名 (法人等)

医療法人新楓和会 あさぶハート・内科クリニック、合同会社グリェックエルフ、医療法人社団 憲仁会 牧田病院、株式会社苫小牧民報社、中道リース株式会社、ニーズ輸送株式会社、株式会社5core、古野電気株式会社、NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト、株式会社ほんま、明治コンサルタント株式会社、ユニークキャリア株式会社

### 寄附者ご芳名 (個人)

原橋 綾子	合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	赤塚真依子	安彦 和之	阿部 雅史	網島 優
石井 哲夫	石井 紀夫	石垣 隆弘	市坂 有基	伊東 聡	伊藤 大貴	伊藤 雄三	犬童いづみ
猪股 路子	井原 博	入澤 秀次	上田 諭	上田 雅敏	梅本 由佳	縁記 和也	遠藤 公憲
大柏 秀樹	大澤 國雄	大原 正範	岡本真なみ	沖崎 遼	小熊 豊	小田原一史	小原 大和
加藤 元	加藤 伸康	加藤 裕貴	嘉藤 好彦	金川 眞行	金澤 勝幸	河井 康孝	河本 充司
北川 誠一	衣川 暢子	木村 祐介	久保 雅子	上月 浩	小辻 英二	小林 賢人	小松 寿幸
齋藤 俊	齋藤 晋	齋藤 久	坂本 大介	左近 祥夫	佐藤 大介	佐野 公昭	三升畑元基
三分一博基	繁澤 良	志済 聡子	洪江 隆雄	洪谷 正人	眞村 公宏	清水 研一	新宮 康栄
菅原 新也	杉江 和男	杉本 聡	鈴木 章彦	鈴木 貴之	鈴木 鐵也	鈴木 充	須藤 武
須和田卓弥	瀬名波栄潤	高瀬登志彦	高田 和成	高橋 修	高柳 涼	竹内 修	竹藪 公洋
田中 佐織	田中 秀明	田中 宏明	田中 優子	土家 琢磨	角田 毅	津村 征秀	出村 克彦
寺澤 睦	照屋 均	豊嶋 晋	豊田 威信	長井 桂	中野 篤	中町 昭道	中村仁志夫
西岡健太郎	西田 実弘	野田扇三郎	野村 修一	長谷川 敦	花田 秀一	馬場 顕介	林 信二
林 美香子	速水 邦彦	原島 秀吉	原本 寛明	久村 正也	姫松 裕志	平井 靖夫	平井 喜郎
福士 幸治	福田 伸	藤澤 裕子	細谷 康次	堀川 学	前田 博	前田 裕貴	増田 隆夫
松井 耕二	松浦 豊	松永 聖弘	松原 謙一	松本 嶺	三上 英範	水島 亜玲	水本 博章
溝畑 茂治	三橋 龍一	南田 大朗	宮田 信幸	向田 茂樹	村上 明	村越 敬	村瀬徳啓充
村瀬 亮太	矢嶋 剛	山崎 貴富	山下 裕久	山田 澤明	山本 康彦	湯浅 資之	横田 浩
横山 考	吉井 誠	吉川 実	吉田 和浩	吉田 英之	吉田 広志	吉田 学	米田 功
若狭 哲	渡部 拓	渡部 克将					

## 銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

大澤 國雄、寫村 公宏、須藤 武、田中 貫生、増田 隆夫、三橋 龍一、吉田 学

(法人)

医療法人新楓和会 あさぶハート・内科クリニック、ニーズ輸送株式会社

---

### ご寄附のお申し込み方法

---

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

#### ①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

#### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

#### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

#### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

## 第2回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD） 第5回国際シンポジウムを開催

化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD /ダブルユーピーアイ アイクレッド。以下、ICReDD）では、1月11日（水）、“Toward Interdisciplinary Research Guided by Theory and Calculation”（理論と計算に先導される融合研究を

目指して）をテーマに、第5回国際シンポジウムを開催しました。また、本シンポジウムに併せて「鈴木章賞」の第2回授賞式・受賞講演会を、フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールと受賞者2名をオンラインで繋ぎ、ホ

ールからの授賞式の様子を配信する形で執り行いました。

（創成研究機構化学反応創成研究拠点（ICReDD））

### 第2回鈴木章賞授賞式・受賞講演会

鈴木章賞は、鈴木 章ユニバーシテイプロフェッサー・名誉教授の卒寿を記念するとともに、2010年ノーベル化学賞受賞の功績を称え、鈴木章賞組織委員会によって2021年に創設され、広義の化学反応の発見に関する研究への顕著な貢献を表彰し、科学技術の発展に寄与することを目的としています。

鈴木章賞は「アキラ・スズキ・アワード」と「アイクレッド・アワード」の2つの部門から成り、アキラ・スズキ・アワードは実験化学分野、アイクレッド・アワードは計算（理論）化学・情報科学分野を対象として、化学反応開発に顕著な功績を取めた研究者にそれぞれ授与されます。

第2回目となる2022年は、アキラ・スズキ・アワードを、米国カリフォルニア大学バークレー校のJohn F. Hartwig教授が、アイクレッド・アワードを、同大学ロサンゼルス校のKendall N. Houk教授が受賞し、授賞式と併せて2名による受賞講演会が行われました。



メダルを手にするHartwig教授（スクリーン左）、Houk教授（同右）と鈴木章賞組織委員会メンバー（前列）

### 第5回ICReDD国際シンポジウム

続いて開催されたICReDD国際シンポジウムの第1セッションでは、主に計算（理論）化学分野を中心に、米国カリフォルニア大学デービス校のDean J. Tantillo教授、カナダ・トロント大学のAlán Aspuru-Guzik教授による講演が行われました。

第2セッションでは、カナダ・クイーンズ大学のCathleen M. Crudden教授、ICReDDの美多 剛特任准教授、伊藤 肇教授による実験化学分野の講演が行われました。

クロージングセッションでは、前田 理ICReDD拠点長より、新たな化

学反応開発における国際的な異分野融合研究の必要性について、また、講演者と参加者への感謝と挨拶が述べられ、シンポジウムは活況のうちに閉会となりました。事前の参加登録は361名、ライブでの参加者は115名で、時差の都合でライブに参加できない方のために、各講演については参加登録者ページにて後日配信を行いました。加えて、シンポジウムウェブサイト内では期間中、総勢36名によるポスター発表も行ったこともあり、日本のみならず世界各地から関心が寄せられました。

ICReDDでは今後もこのような国際シンポジウムを毎年開催し、ICReDDにおける研究を世界へ発信するとともに、様々な分野の研究者との融合研究を展開していきます。



シンポジウムの様子（伊藤教授の講演）

## 第2回北海道大学×HBC子どもSDGs大学 ～未来のキーワード“カーボンニュートラル”って何？～を開催

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部は、北海道放送株式会社（HBC）と連携し、1月7日（土）に「子どもSDGs大学～未来のキーワード“カーボンニュートラル”って何？」を実施しました。子どもSDGs大学は、令和4年8月に第1回を実施し、今回が2回目の開催で、小学5年生から中学2年生までの17名とその家族が参加しました。

本イベントは、HBCの森結有花アナウンサーの司会により進行し、まず、SDGs事業推進本部の加藤 悟教授と北海道放送株式会社清水 収総合ビジネス局長から開会挨拶がありました。

続いて行われた第1講義は、学術交流会館で「“カーボンニュートラル”

って何？」と題し、工学研究院の田部 豊教授と森アナウンサーの対話形式で進められました。CO2の排出量と吸収量のバランスを取るため、どのくらいCO2の排出量を削減すればよいのか、CO2を排出しない再生可能エネルギーにはどのようなものがあるのか説明があった後、電気を自由気ままに使うのではなく、うまく活用すること（活エネ）、そして活用することを楽しむこと（楽エネ）の大切さについてお話がありました。

次にカーボンニュートラルに取り組む現場を直接体感するため、生物生産研究農場にあるバイオガスプラントに移動して、農学研究院の三谷朋弘准教授の案内による見学が行われました。

牛のふん尿を微生物の力でバイオガスに変換し、熱エネルギーとして利用する仕組みを三谷准教授が説明した後、参加者は牛舎やバイオガスに変換する発酵槽、ガスを貯めるガスバックなどを興味深く見学していました。

講義終了後には、子どもSDGs大学の修了式が行われ、加藤教授から参加者に修了証が手渡されました。

サステナビリティ推進機構では、今後もHBCと連携し、本学の教育、研究を発信する取り組みを進めていく予定です。

（サステナビリティ推進機構）



開会挨拶を行う加藤教授



講義を行う田部教授



バイオガスプラントの説明を行う三谷准教授



修了式の様子



## ■ 部局ニュース

# 工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催

工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、毎年「こころの健康セミナー」を開催しています。

本年度は、12月16日（金）に「工学系部局なんでも相談室」カウンセラーである石原一人氏（合同会社アド・レ

ジリエンスカウンセラー）を講師としてオンライン講演形式により開催しました。

本セミナーでは「『なんでも相談室』の相談事例」と題して、個人情報を大幅に加工したうえで、相談事例の報告が行われ、参加した教職員はその認識及び理解を深めました。参加者からは

有益であった旨の感想が多く寄せられ、有意義なセミナーとなりました。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



石原氏による講演の様子

## 令和4年度第1回農学研究院FD研修会を開催

農学研究院では、12月20日（火）に農学部本館大講堂にて、第1回農学研究院FD研修会を開催しました。西邑隆徳農学研究院長の開会の挨拶の後、「大学におけるメンタルヘルスについて」をテーマに、保健センター（医学研究院精神医学研究室）の朝倉 聡准教授による講演が行われました。講演の導入として、コロナ禍の問題を三つの感染：生物的感染、心理的感染、社会的感染として説明があり、長期にわたる感染症災害の特殊性の中で、先が見えないことによる行き詰まり感に対して「希望を処方する」ことが提案されました。また、リモート講義等で心身が安定する学生と不安定になる学生に二極化している傾向について説明がありました。

大学におけるメンタルヘルスに関しては、冒頭で、学生のメンタルヘルスと教職員のメンタルヘルスは互いに関わり合うため、両方を守る重要性について強調されました。そして、パンデミック後に入学した学生（現3年生）の鬱症状がそれ以前より多い傾向がみ

られるため、研究室配属後は注意が必要であるとお話がありました。メンタルヘルス精神疾患の発症率は一般的に生涯割合で24%、年間割合で10%とされているため、北大の学生で年間1,800人、教職員で年間400人が罹患している可能性が紹介され、これに対応できる体制作りが必要とのことでした。北海道大学では、保健センターで学生のメンタルヘルスケアを行い、教職員については、北海道大学病院精神科で対応しています。その心の病気の予防について一次、二次、三次予防に分けて説明がありました。その中で、学生が相談に来たら、批判・アドバイスはせずに傾聴することの重要性や、専門家の支援の前に提供すべき支援として、メンタル・ヘルス・ファースト・エイド・マニュアルにおける四つのステップが紹介されました。特に自殺に至る人の9割が精神疾患を発症していることから、精神疾患への対応が大事であること、学生では学業が要因になることも多く、教員のサポートが重要であること、一人にしないこと、

自殺の相談をされたらまずは死なないことを約束してもらい、医療が必要なこと、精神疾患は珍しくないことなどを伝え、適切に専門家への橋渡しをすることの重要性が説明されました。また、鬱病や統合失調症、境界性パーソナリティ障害、神経発達症の説明に加え、メンタルヘルス不調を生じやすい人・環境についてと、その対処・改善法についても説明がありました。

質疑応答では、増加するメンタルヘルス相談者に対応するため、各部局に相談員を配置できないかという質問に対して、外部カウンセラーと契約している工学部の事例や、複数の部局がまとめてカウンセラーを雇用している事例が紹介されました。

教員48名、事務職員4名が参加し、大学におけるメンタルヘルスの知識やスキルは、今後の学生とのつながりや職場環境の改善において貴重なものになるとの感想が寄せられました。

（農学院・農学研究院・農学部）



西邑農学研究院長による開会のあいさつ



朝倉先生の講演の様子

## 環境健康科学研究教育センター、保健科学研究所及び人獣共通感染症国際共同研究所が第4回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加

11月28日(月)・29日(火)に、世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局(WPRO: Western Pacific Regional Office)主催で、この地域のWHO Collaborating Centre(WHO CC)が一堂に会するフォーラムが4年ぶりに開催されました。コロナ禍での開催ということもあり、カンボジア・シェムリアップの会場はオンライン会場と常時接続されており、ハイブリット形式でWPROや各WHO CCからの発表や、参加者が議論し合うワークショップが行われました。フォーラム全体で、西太平洋地域の10カ国に点在する198のWHO CCから300名が参加しました。

北海道大学には現在、環境健康科学研究教育センターにWHO CC for Environmental Health and Prevention of Chemical Hazardsが、及び人獣共通感染症国際共同研究所にWHO CC for Zoonosis Controlが設置されています。

フォーラムには山内太郎教授(保健科学研究所、環境健康科学研究教育センター)、池田敦子教授(保健科学研究所、環境健康科学研究教育センター)、山崎圭子特任講師(環境健康科学研究教育センター)、澤洋文教授(人獣共通感染症国際共同研究所)、松野啓太准教授(人獣共通感染症国際共同研究所)の5名が参加し、WPROスタッフや他のWHO CCメンバーとの交流を深めました。

本フォーラムでは「For the Future: Towards the Healthiest and Safest Region」をキーワードに、いかにWHOとWHO CCが協働して、特に各国でのCOVID-19対応経験を活かした活動を実施するかが議論されました。全体での会議だけでなく、それぞれのWHO CCの活動領域ごとに分かれたグループディスカッションを通して、WHO CCが西太平洋地域における人々の健康

の増進に寄与するための方策が話し合われました。その結果、WHOとWHO CCはこの地域における各国の問題を共有し、専門知をより効率良く活用するための計画・体制整備を行うことが全会一致で決定されました。また、本フォーラム中には、会場からバスで1時間ほど移動し、カンボジア農村地帯の医療拠点の見学も行いました。カンボジアの地方における医療体制・設備について紹介を受けることで、WHO CCとしての活動に現場の声を反映させるプロセスの重要性を感じる機会となりました。

北海道大学の2つのWHO CCは今後もお互いに連携し合い、本学における教育・研究にWHO CCとしての活動を反映させていきたいと考えています。

(人獣共通感染症国際共同研究所)



左から山崎特任講師、池田教授、山内教授、澤教授、松野准教授

## 「森のたんけん隊2023冬」を開催

北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林（幌加内町）で、1月12日（木）から13日（金）に小学生向け野外プログラム「森のたんけん隊2023冬」（幌加内町教育委員会及び名寄市北国博物館との共催）を実施しました。この季節、毎年恒例のイベントですが、コロナ感染症の影響で一昨年は中止、昨年は日帰りだったので、3年ぶりの1泊2日での開催となりました。

幌加内町・名寄市の小学4-6年生、計11名が参加しました。雨龍研究林の庁舎に集合して昼食をとった後、さっそく森の探検に出発。新雪の上、スタッフを置いて先に駆け出す子供たちもいて、最初から元気いっぱいです。天然林に分け入って地図を見ながら7つのクイズ・課題を回り、木の種類や大きさ、森の特徴を学んでいきました。一旦戻って休憩した後は、焚火を用意した広場でイグルー作り。子供たちの役割は、伐り出された雪のブロックを成形し、積み重ねを手伝う作業です。

およそ1時間半で、子供数人が入れる基地が見事に完成。日が落ちてすっかり暗くなった後半は、スノーランタンをつくり、明かりを灯して楽しみました。

おいしい夕食でお腹を満たし、夜のプログラム「森のハンドメイド」の時間。事前にスタッフが用意した木の実や葉、幹の円盤などに加えて、昼に自分たちで森から持ち帰った枝や樹皮を使って、思い思いの作品をつくっていききました。あっという間に就寝時間。宿泊のイベントは久しぶり、という子供も多かったかもしれません。

翌朝は、まず雪上車に乗って出発。寝不足気味の子供も、揺れですっかり目が覚めたのでしょうか。昨日よりずっと遠くにある天然林まで向かい、2班にわかれて取り組んだのは「宝さがし」。スタッフが作成した「巻物」のヒントを頼りに、昨日のクイズの答えを復習しながら、皆で方向を相談しつつ先へ進んでいきます。探すこと1時間余り。

1メートルを超える積雪の中から「宝箱」を掘り当てたときには、思わず歓声があがりました。最後は、イグルーを作った広場で雪原パーティー。温かい食事をとれば皆すぐに元気が回復します。スノーモービルに体験試乗したり、雪合戦をしたりして解散時間まで存分に楽しみました。この季節、吹雪に見舞われるような日も多いのですが、今回は比較的気温が高く、良い天候に恵まれたのは何よりでした。

冬の森では安全が第一。今回は久しぶりの1泊開催でもあり、事前の準備やスタッフ間の打ち合わせにも時間を費やしました。コロナ禍にあって、以前より参加人数を絞っての開催でしたが、今後、こうしたイベントの機会を増やし、より多くの子供たちに森の楽しさを伝えていきたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



森の中のクイズ



イグルーづくり



森のハンドメイド



宝さがし



# 令和4年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、1月25日（水）に、本学及び道内外の各大学の技術職員を対象とした令和4年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修（オンライン研修）を開催しました。本研修は教育研究支援業務に関する専門的知識と技術を広く習得することを目的に毎年開催しており、3年連続でオンラインでの開催となりました。今年度は53名（うち、他大学からは、北海道国立大学機構帯広畜産大学1名、京都大学3名、鳥取大学4名、九州大学3名、琉球大学4名、筑波大学1名、神戸大学1名）の参加がありました。

当日、午前の部では、初めに、本センター長の宮下和士教授による「センター長講話」という演題で、研究内容のバイオロギングに関する手法の説明や、技術職員に向けたセンターの将来構想についての講義を行いました。次に、農学研究院の小林国之准教授による「食料主権と北海道農業の役割」と

いう演題で、国際関係の中で地域の生産者や食文化・遺伝資源を守ることの重要性、北海道農業のこれからのについての講義を行いました。次に、人獣共通感染症国際共同研究所の松野啓太准教授による「身近な人獣共通ウイルス感染症について」という演題で、マダニの生態や、ヒトを含む多様な動物間でマダニにより媒介されるウイルス性感染症の事例についての講義を行いました。

午後の部では、「フィールド系技術業務に関する情報交換～各施設からの報告～」として、9施設（生物生産研究農場、植物園、静内研究牧場、洞爺臨湖実験所、帯広畜産大学畜産フィールド科学センター、京都大学大学院農学研究科附属農場、鳥取大学技術部生物生産管理部門、九州大学農学部附属農場高原農業実験実習場、琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）から10件の報告がありました。昨年度に引き続き、報告を3つのセッションに分け、途中に分科会を設けて発表者毎に数グループに分かれ

（Zoomのブレイクアウトルーム機能）、質疑応答や情報交換を行いました。受講者アンケートでは、「他機関の技術職員の頑張りは自らの励みになります」などの感想がありました。

オンラインでの開催に伴い、進行上のアクシデントはありましたが、オンラインだからこそ参加できた職員も多く、昨年度を上回る人数の技術職員が参加して、大変貴重な研修となりました。参加者からの意見を踏まえ、引き続き今後の研修のあり方について模索していきたいと考えています。開催にあたりご指導・ご協力・ご講演いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



研修の様子

情報交換の報告は、以下の通り（○印が発表者）です。

- 「水田へのIoT機器導入による水管理システムの構築とその省力化効果」  
○古川 望・石田亘生・長野宏則・橋本哲也・市川伸次・角田貴敬（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場）
- 「乳製品工場の取り組みについて」  
○織田智也（帯広畜産大学畜産フィールド科学センター乳製品工場）
- 「鳥取大学フィールドサイエンスセンター畜産班の業務について」  
○梅実貴之（鳥取大学技術部生物生産管理部門生物生産管理分野）
- 「『実習における作業体験の補完』に関する取り組み」  
○石田亘生（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場）
- 「静内研究牧場における有害獣侵入防止への取り組みについて」  
○猪瀬善久（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場）
- 「バイオスティミラント剤の散布がミニトマトの生育および収量、品質に及ぼす影響」  
○西川浩次<sup>A)</sup>・岸田史生<sup>A)</sup>・若原浩義<sup>A)</sup>・滝澤理仁<sup>B)</sup>・中野龍平<sup>A)</sup>・中崎鉄也<sup>A)</sup>（<sup>A)</sup>京都大学農学研究科附属農場、<sup>B)</sup>龍谷大学農学部）
- 「亜熱帯フィールド科学教育研究センターによる教育活動と今後の課題」  
○茅野太紀・新垣美香・鈴木詩織・屋良朝宣・村田正将・知花重治・河野雅志・外間 聡・上原一郎（琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）
- 「北大植物園における高病原性鳥インフルエンザ発生の報告」  
持田 大・永谷 工・大野祥子・稲川博紀・高田純子・○高谷文仁・板羽貴史（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）
- 「洞爺臨湖実験所の魚道とサクラマス」  
○阿達大輔（北方生物圏フィールド科学センター洞爺臨湖実験所）
- 「九州大学高原農業実験実習場の概要と取り組み」  
○塩塚雄二・衛藤哲次・藤野亮一（九州大学農学部附属農場高原農業実験実習場）

## ■お知らせ

# 過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

※ 立候補者の記載は届出順。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者		
教 員	文系	（経済学研究院）	安部 由起子	
	理 系	理学研究院	（理学研究院）	渡邊 剛
		工学研究院・情報科学研究院	（工学研究院）	山形 定
		上記以外の理系	（農学研究院）	清水池 義治
	医系	（薬学研究院）	松田 研一	
附置研究所・研究センター系	（スラブ・ユーラシア研究センター）	仙石 学		
職 員 （ 教 員 を 除 く ）		（総務企画部）	足利 誠	
		（国際部）	寺澤 惇	
		（歯学事務部）	秋永 崇裕	
特 任 教 員 ・ 契 約 ・ 短 時 間 勤 務 ・ 嘱 託 職 員		（低温科学研究所）	日下 稜	
		（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部）	井上 直樹	

## ■ 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
5.1.9	Bradford H. Sewell 氏（札幌農学校初代教頭 W.S.クラーク博士 御子孫）	クラーク博士に関する情報収集
5.1.27	フィリピン宇宙庁 Joel Joseph S. Marciano Jr. 長官	今後の交流に関する懇談及び 名誉学位記授与式出席



Bradford H. Sewell 氏（中央）



Joel Joseph S. Marciano Jr. フィリピン宇宙庁長官（中央）

（国際部国際連携課）

# 人事

令和5年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院理学研究院教授 大学院工学研究院教授 情報基盤センター教授	吉 澤 和 範 大 竹 翼 飯 田 勝 吉	大学院理学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 情報基盤センター准教授

## 新任教授紹介

令和5年2月1日付



理学研究院教授に

よしざわ かずのり  
**吉澤 和範 氏**

地球惑星科学部門  
地球惑星ダイナミクス分野

生年月日

昭和49年2月10日

最終学歴

オーストラリア国立大学大学院博士課程修了 (平成14年10月)  
Ph.D. (オーストラリア国立大学)

専門分野

グローバル地震学、地球内部物理学



工学研究院教授に

おおたけ つばさ  
**大竹 翼 氏**

環境循環システム部門  
資源循環工学分野

生年月日

昭和54年10月2日

最終学歴

ペンシルバニア州立大学大学院地球科学科Ph. Dコース修了 (平成20年12月)  
Ph. D (ペンシルバニア州立大学)

専門分野

資源地質学、地球化学



情報基盤センター教授に

い い だ か つ よ し  
**飯田 勝吉 氏**

情報ネットワーク研究部門

生年月日

昭和48年9月25日

最終学歴

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了 (平成10年3月)  
博士 (情報工学) (九州工業大学)

専門分野

情報ネットワーク、ネットワークセキュリティ、  
性能評価



## 編集メモ

- 2月4日（金）から2月11日（土）まで、さっぽろ雪まつりが開催され、総合博物館の小林快次教授が監修し、「白亜紀の北海道 ～ティラノサウルス&カムイサウルス～」と題した大雪像が制作されました。繊細に恐竜の質感が

雪で表現された、大迫力の恐竜たちの姿に、来場者も感動していました。北海道大学オフィシャルショップブースでは、北大短角牛や北大燻製珈琲の「アノトキ」、北海道大学の博物館グッズなどが販売されました。



ティラノサウルスとカムイサウルスの大雪像



北海道大学オフィシャルショップブース



オフィシャルショップにて北大グッズを販売



ライトアップされた大雪像

## 裏表紙メモ

北海道で積雪が最も多い季節になりました。皆様も、厳しい寒さと雪かきに追われる日々が続いたのではないのでしょうか。人工雪誕生の地記念碑も、すっかり雪に覆われています。1936年3月当時、ここには常時低温研究室があり、中谷宇吉郎博士によって世界初の人工雪結晶がつくられました。中谷博士は「雪は天から送られた手紙」という美しい言葉を残しています。

## キャンパス風景 35 人工雪誕生の地記念碑（北11条西8丁目）



北大時報 ② No.827 令和5年2月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>